

PIANO PLAYER

取扱説明書

YAMAHA

このたびは、ヤマハ・ピアノプレーヤをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
ピアノプレーヤは、ヤマハの高度な電子技術と、永年にわたる楽器づくりの経験を結集し、開
発した音楽性豊かな演奏装置です。

ピアノプレーヤの豊富な機能と優れた性能をフルに発揮させると共に、長年支障なくお使いい
ただくため、この取扱説明書をよくお読みください。

特長

- 記録媒体にマイクロフロッピーディスクを使用するデジタル方式の装置で、再生時にもピ
アノ本体を使って再生するしくみですから、音のふらつきやノイズ、歪みがありません。
- ピアノシモからフォルテシモまで、微妙なタッチも録音・再生できます。← **録音は録再モデ
ルのみ可能**
- 再生の際、音量の調整や移調、テンポ調整が自由に行なえます。なお、テンポを変えても、音
程が変わってしまうことはありません。
- 選曲や早送り、早戻しがスピーディに行なえます。
- 再生しながら同時に重ね弾きすることができます。
- メトロノームの機能を装備しており、メトロノームの音を聞きながら、録音したり練習した
りできます。← **録音は録再モデルのみ可能**
- 曲を繰り返して再生するリピート再生機能があります。
- L/R対応曲の録音および再生も可能です。← **録音は録再モデルのみ可能**
- MIDI機能を内蔵しており、再生時に外部のMIDIキーボードで再生したり、シーケンサーやリ
ズムマシンと様々なMIDIコントロールが可能です。
- デジタルシーケンスレコーダー QX3 等で記録した曲を再生でき、MIDI音源をつないでアン
サンプル演奏が楽しめます。

ヤマハ・ピアノプレーヤの商品体系

ヤマハ・ピアノプレーヤは、アップライトピアノには、ピアノプレーヤをビルトインしたタイプと、
コントロールユニットをピアノに据え置きしたタイプの2種類があり、独立したコントロールワゴン
を備えたグランドピアノと合わせ、3種類のタイプに大別されます。(それぞれ録再モデルと再生専用
モデルの2バージョンがあります。)

	タイプ	バージョン
アップライトピアノ	ビルトインタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノプレーヤをビルトインした専用モデル。 ・録再モデルと再生専用モデルがあります。
	コントロールユニット据置タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルトインタイプ以外のヤマハ・アップライトピアノに、特別注文でピアノプレーヤをセットした場合と、お手持ちのアップライトピアノにピアノプレーヤをセットした場合。 ・録再モデルと再生専用モデルの2タイプがありますが、お手持ちのピアノに取り付けられるのは再生専用モデルのみです。
グランドピアノ	コントロールワゴン独立型	<ul style="list-style-type: none"> ・録再モデルと再生専用モデルの2タイプがあります。 ・ただし、お手持ちのグランドピアノには取り付けできません。

ビルトインタイプ

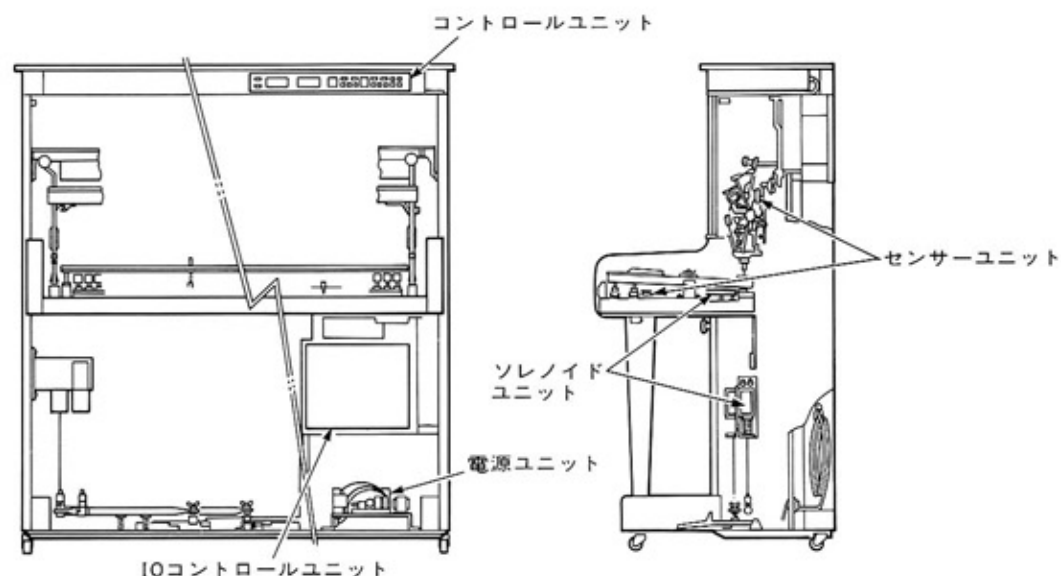
コントロールユニット据置タイプ

グランドピアノ



ピアノプレーヤのしくみ

ピアノプレーヤは、コントロールユニットと、センサーユニット、ソレノイドユニット、電源ユニット、IOコントロールユニットからなるドライブユニットとで構成されています。



アップライトピアノ・ビルトインタイプ

アップライトピアノ・ビルトインタイプ

目

ご使用前に	3
リモコンの電池セット	4
再生してみましょう	5
各部の名称と機能	
フロントパネル	8
リモコン	11
リアパネル / コネクタ部	12
フロッピーディスクについて	
規格について	14
取り扱いについて	14
録音内容の消去防止	14
フォーマット	14
録音内容の消去	15
登録	16
録音してみましょう	17
録音機能	
録音一時停止	19
L/R対応曲の録音	19
メトロノームを使った録音	20
再録音	22
アンサンブル対応曲の録音	22

次

再生機能	
早送りおよび早戻し	23
再生一時停止	23
テンポの変更	23
移調	23
リピート再生	24
リターン&ストップ	25
L/R対応曲の再生	25
アンサンブル対応曲の再生	26
付加機能	
曲名およびディスクタイトルの入力	27
メトロノーム機能のみの使用	30
1曲消去	31
MIDI機能	31
仕様	32
警告およびエラー表示について	33
故障と思われるときには	34
保証とサービスについて	35

ご使用前に



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因になりますのでご注意ください。

- ・窓際など直射日光の当たる場所
- ・暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・湿度の極端に高い場所
- ・極端に乾燥した場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



電源について

・本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V (50Hzまたは60Hz) の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源は絶対にご使用にならないでください。

・長期間ご使用にならない時は、電源コードをコンセントからはずしてください。



フロッピーディスクについて

フロッピーディスクは、ていねいに取り扱いってください。(14ページ参照)



ピアノの前板を開けない

ピアノ本体にドライブユニットが設置された後は、ピアノの前板を開けないでください。もし必要がある場合は、サービス技術者にご相談ください。



取り扱いはていねいに

・スイッチやボタン、キャビネットなどに無理な力を加えないでください。

- ・キャビネットの上に物を置かないでください。
- ・コード類はピアノの下にはさみ込まないように注意してください。
- ・コード類を抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください。
- ・コード部分の断線やショートを防ぐため、コード類をはずす時は、必ずプラグを持って引き抜いてください。



キャビネットを開けない

キャビネットを開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



水に濡れたら

万一雨が降ったり、花瓶などの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



移動の際には

本機を移動する場合は、コード類の断線やショートを防ぐため、コード類をすべて取りはずしてください。



外装のお手入れについて

- ・汚れなどのお手入れは柔らかい布でからぶきしてください。
- ・ベンジンやシンナーなどの揮発油で外装をふいたり、近くでエアゾールスプレーを散布したりすることはお避けください。



他の電気機器への影響について

- ・本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、ラジオやテレビ側で雑音などが生じることがあります。十分に離してご使用ください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には、実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず34ページの“故障と思われるときには”をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保管してください

この取扱説明書をお読みになりましたら、保証書と共に大切に保管してください。

音楽を楽しむエチケット

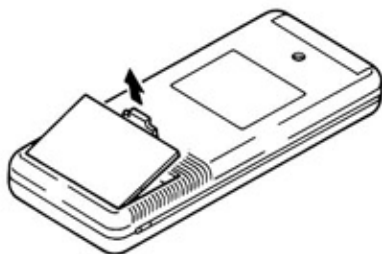
♪♪♪ 楽しいピアノの演奏も、時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、厚手のカーテンをするのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

リモコンの電池セット

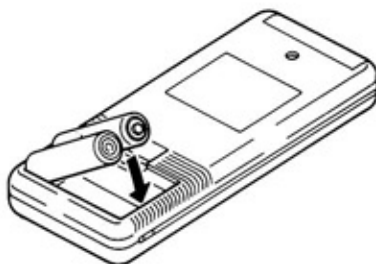
付属のリモコン(リモート・コントロール・トランスミッター)は、付属の単3乾電池2本をセットしてお使いください。リモコンを使用すると、再生時の操作が、本体側(ピアノプレーヤ本体)のボタンで操作するよりも簡単になります。詳しくは、“各部の名称と機能”の項をご覧ください。

乾電池のセット

①底面のバッテリーカバーをはずします。



②⊕と⊖の向きを確認しながら、電池2本をセットします。



③バッテリーカバーをもとのとおりに戻します。

ご注意

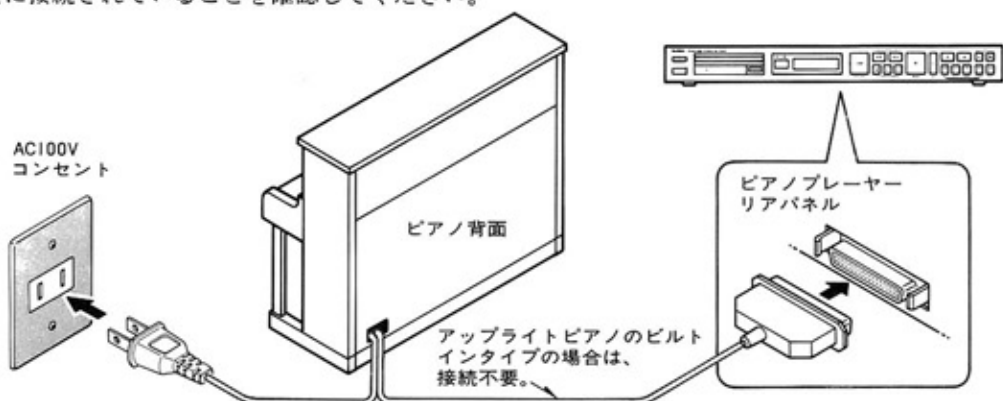
- ⊕と⊖の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- リモコン操作できる距離が短くなってきたら、電池を交換してください。
- 電池交換は、同じタイプの電池を2本同時に交換してください。
- リモコンを長い間使用しない場合には、液もれを防ぐため電池を取り出しておいてください。

再生してみましょう

まず最初に、付属のフロッピーディスクの曲を再生してみましょう。

①接続

電源プラグをAC100Vコンセントに差し込みます。さらに、アップライトピアノのコントロールユニット据置タイプと、グランドピアノの場合は、ピアノと本機(ピアノプレーヤ)間のケーブルが確実に接続されていることを確認してください。



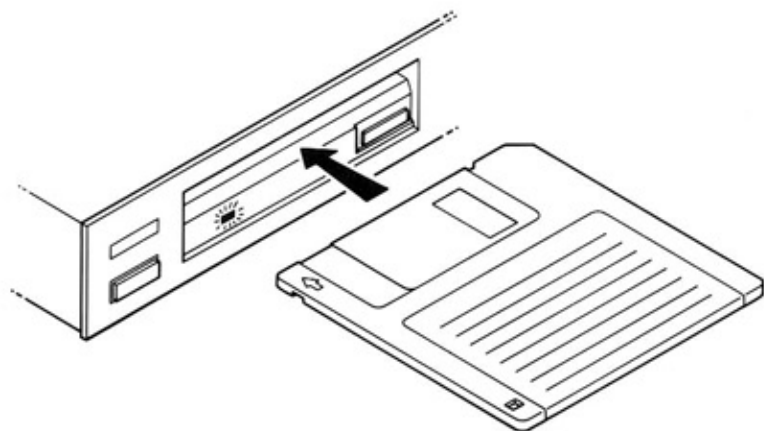
②電源スイッチをON

電源スイッチをONにします。すると、フロントパネルのLCD(液晶表示部)に次のように表示されます。

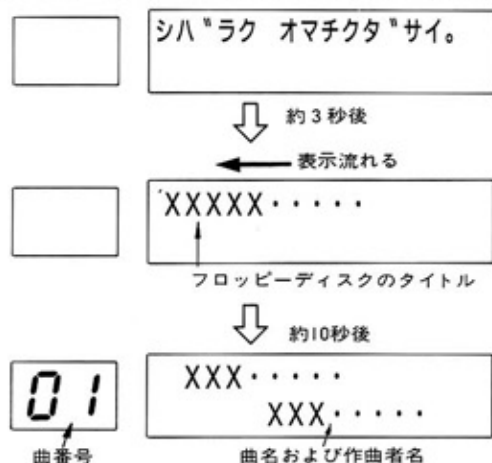


③フロッピーディスクの挿入

付属のフロッピーディスクをピアノプレーヤにセットします。ラベル面を上にして、矢印方向に静かに挿入してください。



フロッピーディスクをセットすると、次のような表示になります。



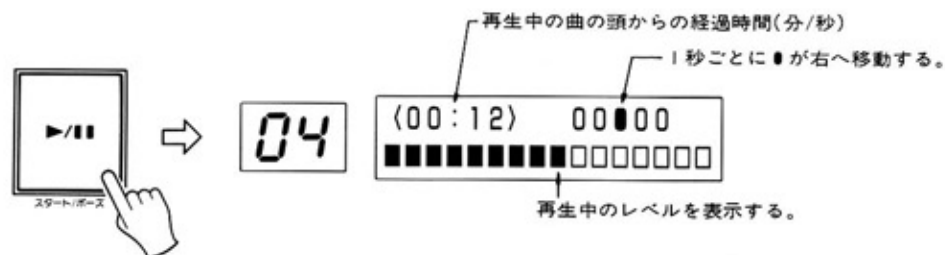
④曲の選択

再生する曲を選びます。選曲／早送り戻しボタンを押して、再生したい曲の曲番号および曲名を表示させてください。



⑤再生開始

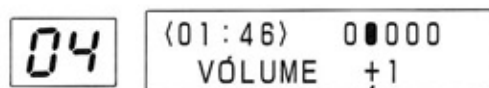
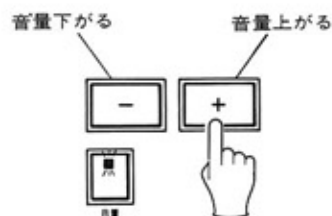
スタート／ポーズボタンを押して、再生を開始します。曲が始まると、LCDには「曲が始まってからの経過時間」、「1秒ごとのカウント」、「再生レベル」が表示されます。



⑥音量の調節

音量を調節します。音量ボタン内のインジケーターが点灯していることを確認した上で、**[-]**ボタンおよび**[+]**ボタンで音量を調節してください。このとき、音量ボタン内のインジケーターが点灯していない場合には、音量ボタンを押してインジケーターを点灯させてから、この操作を行なってください。

なお、音量を調整するとLCDの表示が次のように変わります。



レベル表示が消えて、音量表示になる。

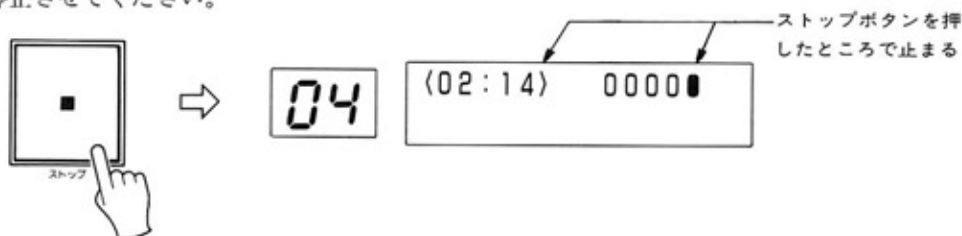
音量は、ノーマルモードで-4, -3, -2, -1, 0, +1の6段階、ミュートモードで-5, -6の2段階、合計8段階の中で設定できる。ミュートモードは、-4に引き続き表示され、モーター作動音と共にミュート機構が作動しセットされます。

(音量調節後の約10秒後に、レベル表示に戻る。)

※ミュートモードは弱音再生モードです。ピアノプレーヤーの再生音量については、10ページをご覧ください。

⑦再生の終了

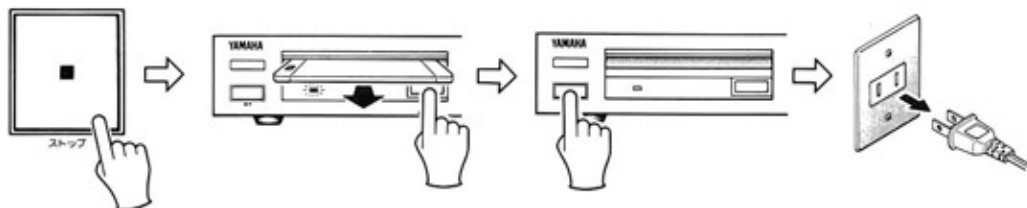
再生は最後の曲が終わるまで続けられます。途中で再生を終了したい場合は、ストップボタンを押して停止させてください。



なお、この状態にすると、再び選曲/早送り戻しボタンで選曲が可能になります。いろいろな曲を再生してみましょう。

⑧使用後は……

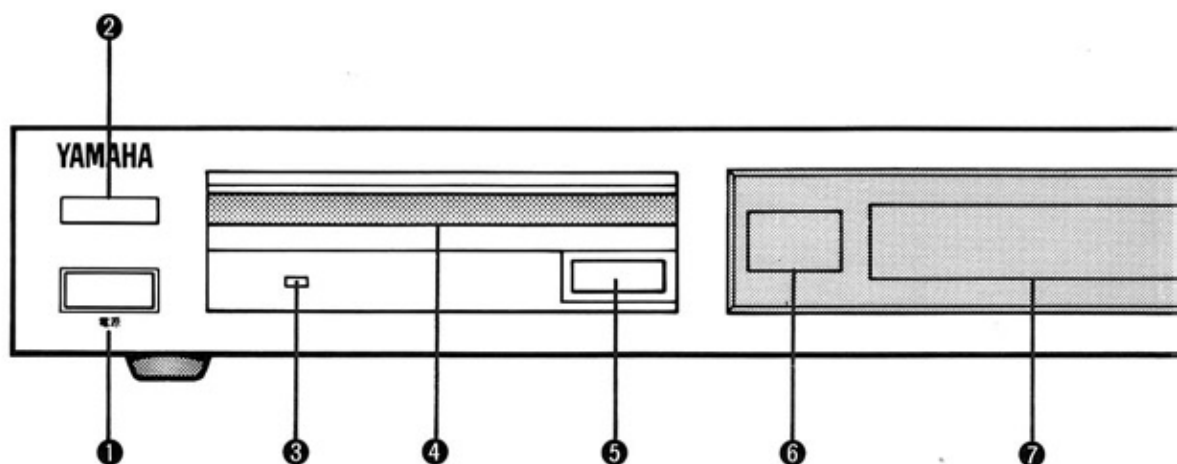
使用後は、ストップボタンを押して停止状態にした後、ディスク取出しボタンを押してディスクを取り出し、電源スイッチを切ってください。また長時間使用しない場合には、電源プラグをACコンセントからはずしてください。



※この他にも、再生に関する数多くの機能があります。*各部の名称と機能*および*再生機能*の項をお読みください。

各部の名称と機能

●フロントパネル



①電源スイッチ

このスイッチを押すと電源が入り、③の電源インジケータと⑧の音量ボタン内のインジケータが点灯すると共に⑦のLCDには“ディスク イレテクダサイ。”というメッセージが表示されます。

②リモコン信号受光窓

リモコンからの信号(赤外線)を受光する窓です。この窓をふさぐと、リモコンからの信号を受光できなくなります。

③電源インジケータ

電源が入ると点灯します。

④ディスクトレイ

ディスクを挿入するところです。

⑤ディスク取出しボタン

挿入したディスクを取り出す時には、このボタンを押します。

※再生および録音中にはディスクを取り出さないでください。ヘッドやディスクを痛めます。

⑥曲番号表示部

選曲した曲の番号を表示します。再生および録音前には、この表示を確認してください。

⑦LCD(液晶表示部)

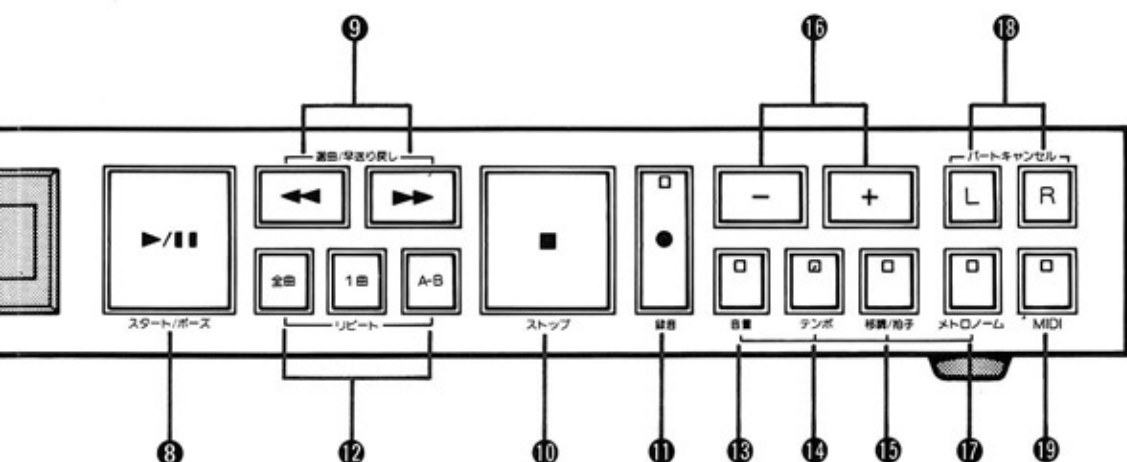
曲名や設定値、曲が始まってからの経過時間、再生/録音レベルなど様々な表示をします。

⑧スタート/ポーズボタン

再生や録音を開始する時にはこのボタンを押します。また、再生や録音中の曲を一時停止させたり、再スタートさせる場合にもこのボタンを使います。(早送りや早戻し中に押すと、その場所から再生を始めます。)

⑨選曲/早送り戻しボタン

停止中や録音開始待ちの状態にあるときは曲の番号を選択するためのボタンとして働き、再生中は早送りおよび早戻しボタンとして働きます。なお、早送りや早戻しを解除する時には、もう一度ボタンを押してください。ボタンを押したところから再生が再び開始されます。また、ボタンをもう一度押さなかった場合には、その曲の頭または次の曲の頭で自動停止します。



※録再モデルの図です。

⑩ストップボタン

再生や録音、早送り、早戻しなど、様々な動作を停止させるためのボタンです。

⑪録音ボタン ← 録再モデルのみ

このボタンを押すと、ボタン内部のインジケーターが点灯して録音開始待ちの状態になります。この状態で⑧のスタート/ストップボタンを押せば、録音を開始できます。

もし録音済みの曲を消して、その部分に録音しなおしたい場合には、このボタンを押して録音開始待ちの状態にしてから、⑨の選曲/早送り戻しボタンでその曲番号を表示させてください。⑧のスタート/ポーズボタンを押せば再録音を開始できるようになります。

★1枚のフロッピーディスクに録音できる曲数は60曲までで、総合録音時間は約90分です。ただし、これは目安であり、録音内容により異なります。

★録音開始待ちの状態ボタンをもう一度押すと、曲名やフロッピーディスクのタイトルを入力できる「曲名/ディスクタイトル入力可能状態」になります。(27ページの「曲名およびディスクタイトルの入力」の項を参照)

★録音開始待ちの状態ボタンを二度押すと、「L/R対応曲のスプリットポイント」を設定できるモードになります。(19ページの「L/R対応曲の録音」の項を参照)

⑫リピートボタン

リピート(繰り返し)再生をしたい場合には、これらのボタンを操作します。(24ページの「リピート再生」の項を参照)

⑬音量ボタン

再生時の音量を調節する場合には、停止中、再生中、再生一時停止中にこのボタンを押して、ボタン内のインジケーターを点灯させてください。⑬の-/+ボタンで音量を調節できるようになります。なお、設定の範囲はノーマルモード-4~+1、ミュートモード-6~-5で、通常は0(標準)にしておきます。

また⑬のメトロノームボタンを押してメトロノームの機能を働かせた場合には、このボタンを押すと、メトロノーム音のON/OFFを選択可能になります。

⑭テンポボタン

再生時の曲のテンポ(スピード)を調節する場合には、停止中、再生中、再生一時停止中にこのボタンを押して、ボタン内のインジケーターを点灯させてください。⑭の-/+ボタンでテンポを調節できるようになります。なお、設定の範囲は-50%~+20%で、通常は00にしておきます。

また、メトロノームの機能を働かせた場合には、このボタンを押すと、メトロノームのテンポ調整が可能になります。

⑮移調/拍子ボタン

再生時の曲の音程(キー)を変化させる場合には、停止中、再生中、再生一時停止中にこのボタンを押して、ボタン内のインジケーターを点灯させてください。⑮の-/+ボタンで移調できるようになります。なお、設定の範囲は2oct-down~2oct-upで、通常はnormalにしておきます。

また、メトロノームの機能を働かせた場合には、このボタンを押すと、メトロノームの拍子設定が可能になります。

⑯-/+ボタン

音量やテンポ、移調など、様々な設定に使用します。"- "ボタンを押すと数値が減少し、"+ "ボタンを押すと数値が増加します。両ボタン共に、押し続けると値が連続的に変化し、1回ずつ区切って押すと値が1ステップずつ変化します。

⑰メトロノームボタン

本機にはメトロノームの機能があり、録音時にメトロノームの音を聞きながら演奏できます。また、録音せずに本機のメトロノームの機能だけを使うこともできます。(再生時には使用できません。)

メトロノームの機能を使う場合には、このボタンを押してください。(メトロノームのテンポや拍子などの設定のしかたは20ページをご覧ください。)

⑱パートキャンセルボタン

L/R対応曲を再生する場合、ボタンを押した方のパートの音をキャンセルできます。つまり、"L"のボタンを押すと左手で弾いた鍵盤の音は再生されなくなり、"R"のボタンを押すと右手で弾いた鍵盤の音は再生されなくなります。

この機能を使うことのできる曲は19ページの"L/R対応曲の録音方法"に従って録音した曲のみです。なお、このボタンはアンサンブル対応曲の再生パートを選択する際にも使用します。

⑲MIDIボタン

他のMIDI機器とMIDI信号をやりとりする場合のみ関係するボタンです。このボタンを押すとMIDIセットアップモードになり、MIDI信号のやりとりの条件などを設定できるようになります。

★MIDIの機能を使う場合には、別冊のMIDIハンドブックをご覧ください。

ピアノプレーヤの再生音量について

ピアノプレーヤの再生音量の調節は、ノーマルモードで6段階(-4, -3, -2, -1, 0, +1)と弱音再生用のミュートモードで2段階(-6MUTE, -5MUTE)の合計8段階の中から選択できます。オリジナルが一番近い状態は、ノーマルモードの0(標準)で、-4~+1は段階的に音量が変わります。また、特に弱音での再生にはミュートモード(-6MUTE, -5MUTE)をお使いになると、弱音再生でもタッチの不揃いが少なく、安定した弱音再生が楽しめます。

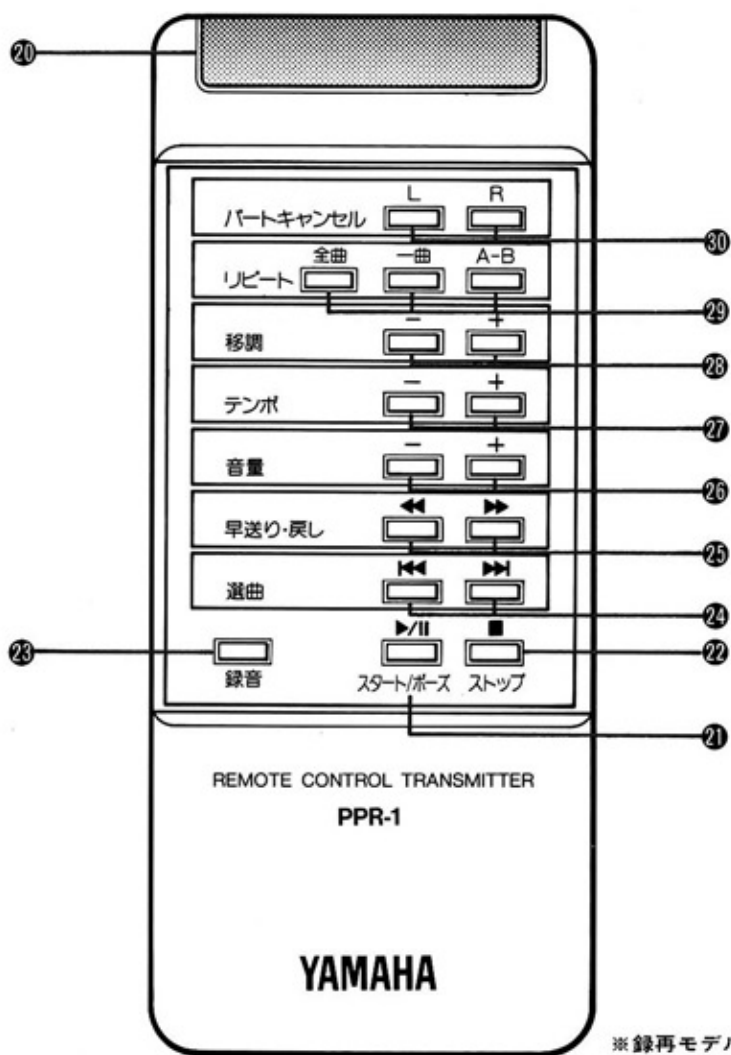
ミュートモードで再生中は、ピアノのハンマーの打弦距離が短縮されています。そのため、鍵盤が不揃いになる場合がありますが、ノーマルモード選択時、録音時および電源を切ると自動的に通常の状態に戻りますので、演奏及び録音には支障ありません。

*音量の調節の操作方法は7ページをご覧ください。

*ミュートモードは、-4に引き続き表示され、モーターが作動しセットされます。

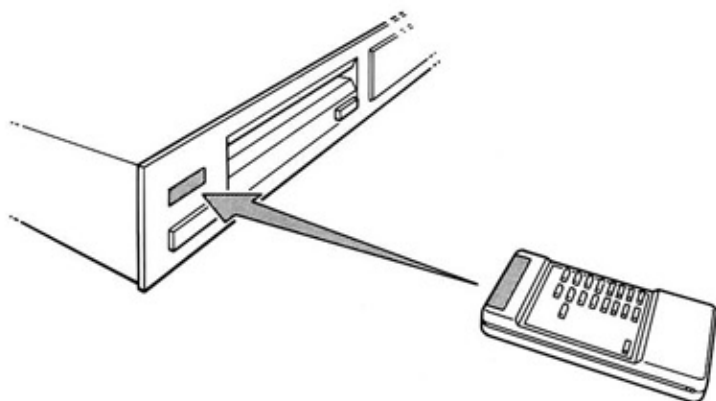
*モード切替時は、モーターが作動しますので「ジー」という音が出ます。

●リモコン



④信号送光窓

フロントパネル②のリモコン信号受光窓に向けて操作してください。ここから、リモコンの信号が送られます。



㉑ スタート/ポーズボタン

フロントパネル⑧のスタート/ポーズボタンと同じ働きをします。

㉒ ストップボタン

フロントパネル⑩のストップボタンと同じ働きをします。

㉓ 録音ボタン ← 録再モデルのみ

フロントパネル⑪の録音ボタンと同じ働きをします。

㉔ 選曲ボタン

曲の番号を選択するためのボタンで、停止、再生、録音開始待ちの状態のときに働きます。

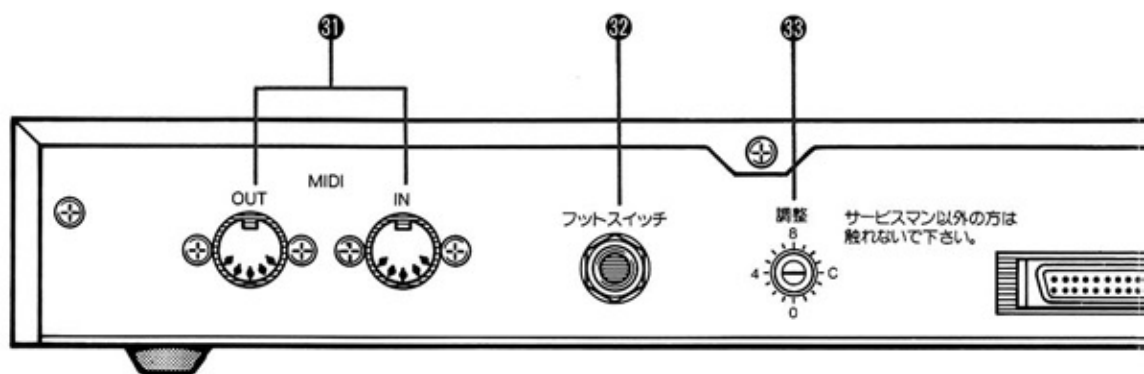
㉕ 早送り・戻しボタン

早送りおよび早戻しをするためのボタンで、停止中、再生中に働きます。もう一度押すまで、早送りや早戻しが続けられます。

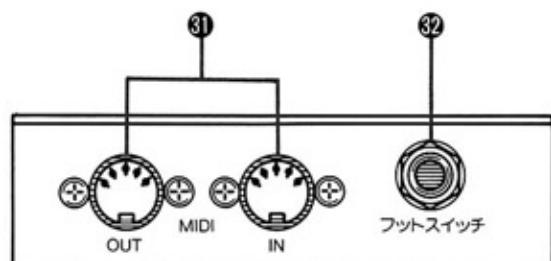
㉖ 音量ボタン

再生の音量を調節するためのボタンで、停止中、再生中、再生一時停止中に働きます。

● リアパネル(コントロールユニット据置タイプ/グランドピアノ)



● コネクタ部(ビルトインタイプ)



⑳ テンポボタン

再生時の曲のテンポを調節するためのボタンで、停止中、再生中、再生一時停止中に働きます。

㉑ 移調ボタン

再生時の曲の音程を調節するためのボタンで、停止中、再生中、

㉒ リピートボタン

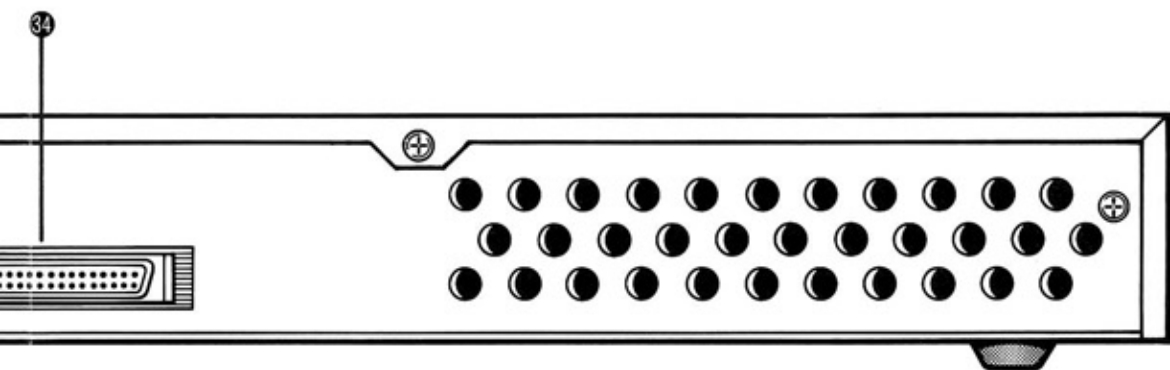
リピート再生をしたい場合に、これらのボタンを操作します。(24ページの「リピート再生」の項を参照)

㉓ パートキャンセルボタン

L/R対応曲を再生する場合、ボタンを押した方のパートをキャンセルできます。

★リモコンでできない操作

- ・メトロノーム機能をONにした場合の操作。
- ・MIDIセットアップモードにした場合の操作。
- ・フォーマット、登録の操作。



㉔ MIDIジャック

MIDI接続用の端子です。本機で他のMIDI機器をコントロールしたり、逆に他のMIDI機器で本機をコントロールするための、MIDI信号のやりとりを行なう端子です。(MIDIの機能を使う場合には、別冊のMIDIハンドブックをご覧ください。)

㉕ フットスイッチジャック

別売のフットスイッチFC-5をこの端子に接続すると、再生や録音の開始、一時停止や再スタートの操作を足もとで行なえるようになります。(フロントパネル㉑のスタート/ポーズボタンと同じ働きをします。)

㉖ 調整用トリマー

サービスマンが調整を行ないます。むやみにさわらないようにしてください。

㉗ 接続コネクター

ピアノと接続をするための端子です。

フロッピーディスクについて

フロッピーディスクは、磁性体を表面に塗付したフィルム状の記憶媒体です。磁性体面はデリケートなので、取り扱いには充分注意してください。

●規格について

- フロッピーディスクには種類があります。録音用のディスクを購入する時には、両面倍密度倍トラックの3.5インチフロッピーディスク(推奨商品:ヤマハ・YFD-2DD)とご指定ください。← **録音は録再モデルのみ可能**
- フロッピーディスクには向きがあります。必ず5ページの図のような向きに挿入してください。
- 本機でフォーマットしたフロッピーディスクは、1枚につき約90分録音できます。(録音条件により異なる。)

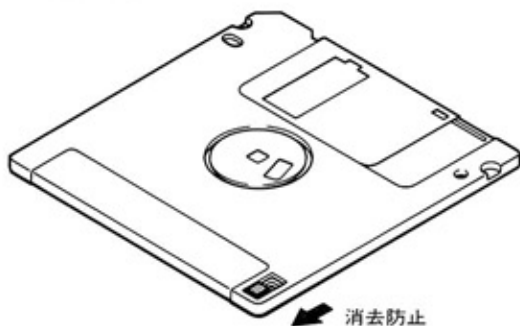
●取り扱いについて

- シャッターをスライドさせて磁性体面に触れないでください。また、煙やスプレーを吹きかけたりしないでください。汚れが付着したり、傷がつくと使用不可能になることがあります。
- ホコリの少ない場所でご使用ください。
- テレビやラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びたものに近づけないでください。
- 温度条件は4℃～52℃です。4℃以下や52℃以上の場所に保管しないでください。

●録音内容の消去防止 ← 録再モデルのみ

消去防止用のツメを下図のように矢印方向にスライドさせると、録音ができなくなり、大切な内容を誤って消してしまうことがなくなります。

ツメを元の位置に戻せば、再び録音することができます。← **再生専用モデルをご使用の場合は、切り替えの必要がありません。**



●フォーマット ← 録再モデルのみ

録音用に購入したディスクを、本機で使用するには、まず「フォーマット」という処理をしなければなりません。

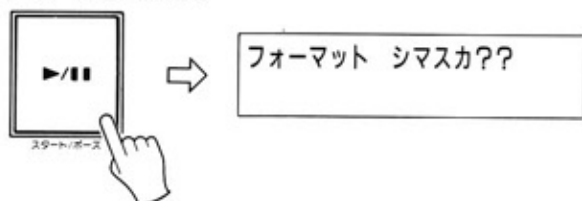
つまり、ディスクは録音前にフォーマットしないと使えません。なお、付属のディスクをフォーマットする必要はありません。(録音済みの内容が消えてしまいます。)

——フォーマットの方法——

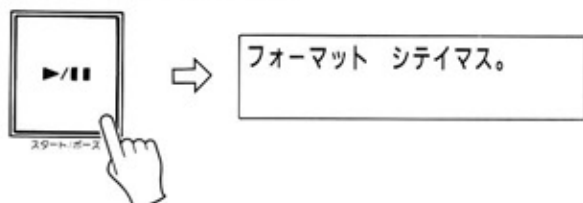
- ①ディスクを挿入した後、ストップボタンを押しながら録音ボタンを押し、“フォーマット シマスカ？”が表示されたら指を離す。



- ②手順①の確認の表示に対して、スタート/ポーズボタンを押す。(フォーマット処理をとりやめる場合は、ディスクを取り出す)



- ③手順②の再度の確認に対して、スタート/ポーズボタンをもう一度押す。(フォーマット処理をとりやめる場合は、ディスクを取り出す)



- ④数分後、フォーマットが終了して次のような表示になる。



●録音内容の消去 ← 録再モデルのみ

録音内容を一度すべて消去したい場合には、“フォーマット”の操作をしてください。

●登録

ヤマハデジタルシーケンスレコーダーQX3など、他のシステムで録音した内容を本機で再生するには、ここに示す“登録”という処理を行なってください。(詳しくは、MIDIハンドブック・3-7データの互換性をご覧ください。)

再生だけでなく、他のディスクと同じように録音も可能になります。

- ①ディスクを挿入する。すると次の表示になる。

コノディスクハ ツカエマセン。
トウロク ヲ シテクタサイ。

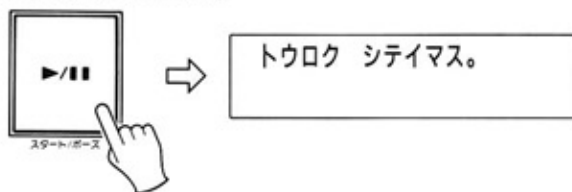
- ②ストップボタンを押しながら  ボタンを押し、“トウロク シマスカ?”が表示されたら指を離す。



- ③手順②の確認の表示に対して、スタート/ポーズボタンを押す。(登録の処理をとりやめる場合は、ディスクを取り出す。)



- ④手順③の再度の確認に対して、スタート/ポーズボタンをもう一度押す。(登録の処理をとりやめる場合は、ディスクを取り出す。)



- ⑤数十秒後、登録が終了して次のような表示になる。



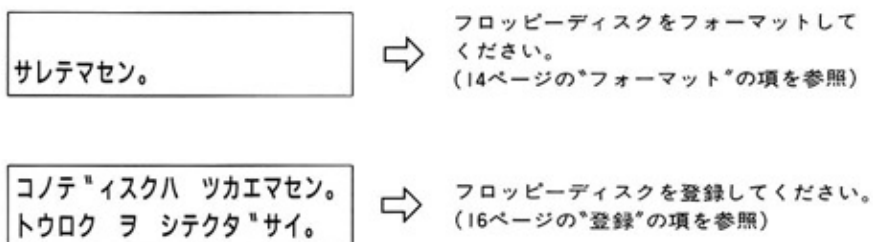
録音してみましょう ← 録再モデルのみ

市販のフロッピーディスクを用意し、実際に演奏を録音してみましょう。

①録音の準備

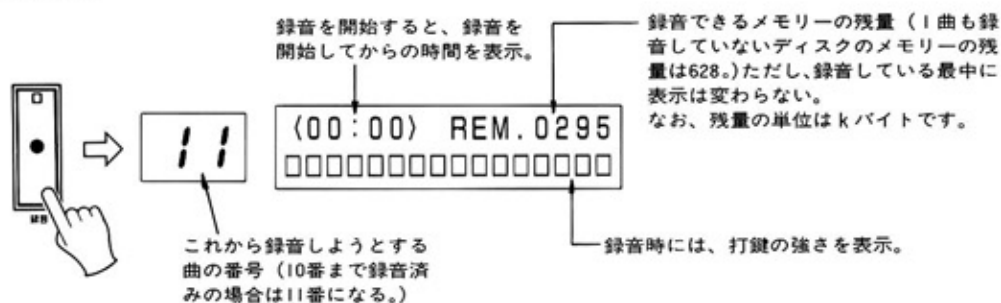
録音の準備をします。5ページの“再生してみましょう”と同じ要領で、接続→電源スイッチをON→フロッピーディスクの挿入の順に作業を行なってください。

もし、フロッピーディスクを挿入した時点で、次のように表示された場合には、表示に従い各操作を行なってください。



②録音開始待ちの状態に

録音ボタンを押して録音開始待ちの状態にします。録音開始待ちの状態にすると、次のような表示になります。



この時、もし次のように表示されたら、フロッピーディスクの消去防止用のツメを反対側にスライドさせてください。(14ページの“録音内容の消去防止”の項を参照)

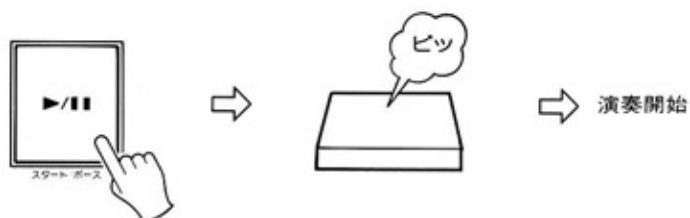
ディスクニ フロテクトカ
カカッテイマス。

③各種機能の設定

必要に応じ、L/R対応曲のスプリットポイントの指定、メトロノーム機能の設定、再録音する曲の曲番指定などをします。(次項の“録音機能”をご覧ください。)

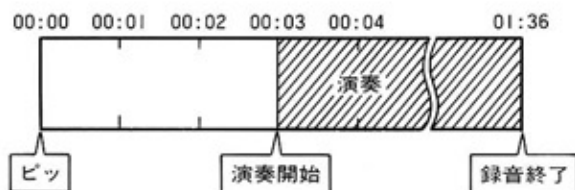
④録音開始

スタート/ポーズボタンを押して録音を開始します。ボタンを押すと「ピッ」という音がしますから、この音がしたら演奏を始めてください。



★ピッ音がするとすぐにLCD上の時間表示がカウントされ始めますが、実際には録音は演奏を始めた時点から開始されます。したがって、ピッ音がしても急いで演奏を始める必要はありません。ただし、約20秒後からの無録音部分はカットされません。なお、再生時には、自動的に曲の頭に2秒間の空白が挿入されて再生されます。

●録音時



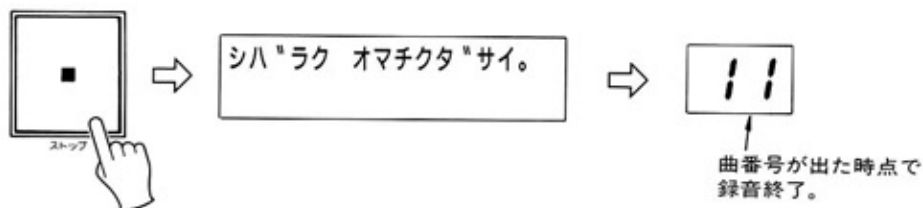
●再生時

無録音部分はカットされ、2秒後から演奏が開始される。



⑤録音終了

演奏が終了したら、ストップボタンを押してください。「シバラク オマチクダサイ」の表示の後、2～3秒すると、録音していた曲の番号が表示され録音が終了します。



★録音の途中でディスクを抜いたり、電源を切らないようにしてください。誤ってディスクを抜いたり、電源を切ると、記録されずに「ファイルが ミツカリマセン。トウロク シナオシテクダサイ。」と表示されることがあります。(33ページ参照)

⑥曲名の入力

必要に応じ、録音した曲の曲名を入力します。(入力方法は27ページ参照)

録音機能 ← 録再モデルのみ

ここでは、録音に関する様々な機能を紹介します。

録音一時停止

録音している途中でスタート/ポーズボタンを押せば、録音一時停止状態にすることができます。この状態でもう一度スタート/ポーズボタンを押せば、継続して録音できます。ただし、継続録音を開始してから演奏を始めるまでの無録音部分はカットされません。

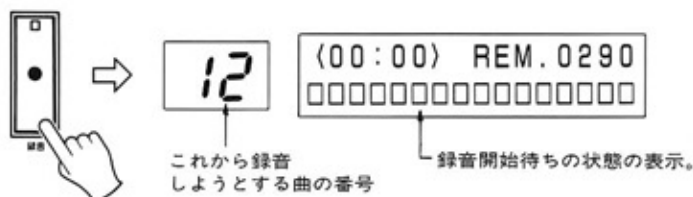
L/R対応曲の録音

録音開始待ちの状態のときにスプリットポイント(左手と右手の境となる鍵盤)を指定すると、L/R対応曲になります。L/R対応曲として録音した曲は、再生の時にどちらか片方のパートの音だけを再生することなどが可能となります。(25ページの“L/R対応曲の再生”の項を参照。)

●L/R対応曲の録音方法

①録音開始待ちの状態にあることを確認

録音ボタンを押せば録音開始待ちの状態になります。



②スプリットポイント入力可能状態に

録音ボタンを2度押して、スプリットポイント入力可能状態にします。

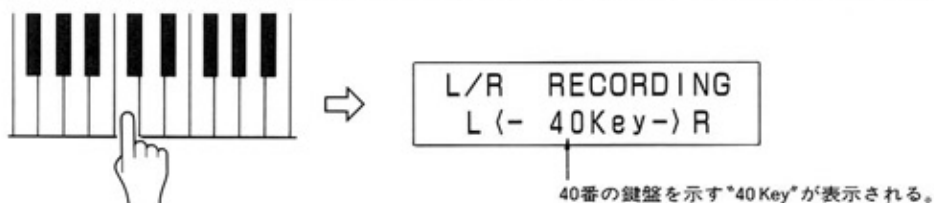


③スプリットポイントの指定

ピアノの鍵盤を押してスプリットポイントを指定します。左手のパートの一番右の鍵盤を押してください。これがスプリットポイントになります。

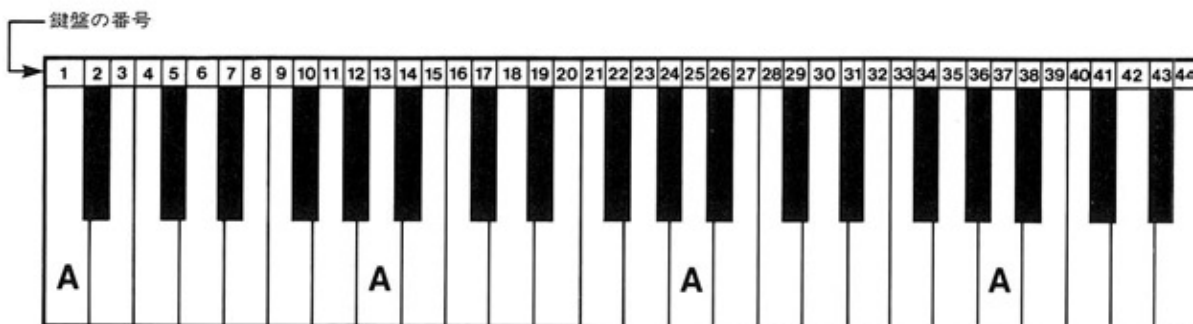
なお、指定したスプリットポイントはLCD上に、右上図に示す鍵盤の番号で表示されます。

たとえば、40番の鍵盤(中央のド)をスプリットポイントにすると、次のように表示されます。



④録音開始

スタート/ポーズボタンを押せば録音を開始できます。



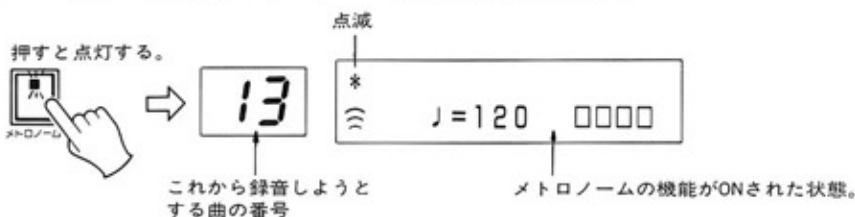
メトロノームを使った録音

録音開始待ちの状態のときにメトロノームの機能の設定をすると、テンポを目と耳で確認しながら録音できるようになり、便利です。

①録音開始待ちの状態にあることを確認

②メトロノームの機能をON

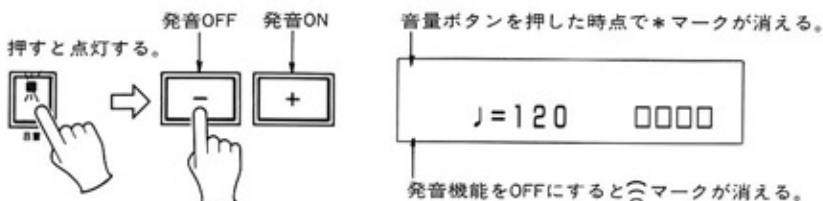
メトロノームボタンを押してメトロノームの機能をONにします。



③メトロノームの設定

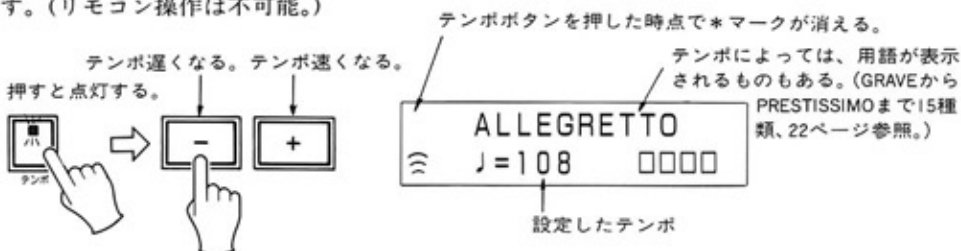
●メトロノーム音のON/OFF

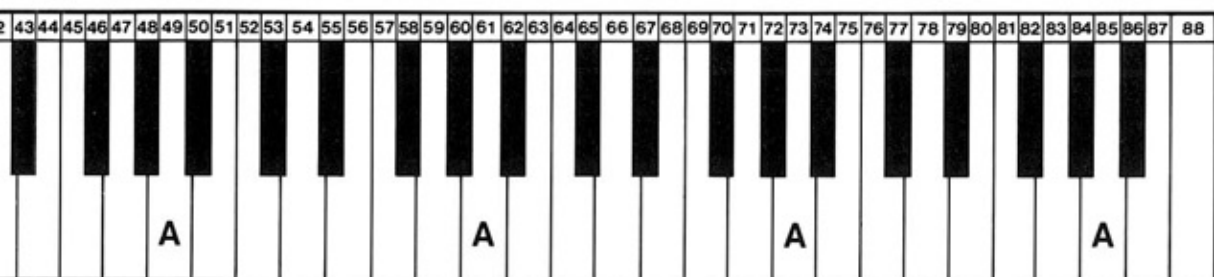
音量ボタンを押した後、-ボタンを押すとメトロノーム音の発音機能がOFFされます。また、+ボタンを押すとONに戻ります。(リモコン操作は不可能。)



●メトロノームのテンポ設定

テンポボタンを押すと、-ボタンおよび+ボタンでメトロノームのテンポを設定できるようになります。(リモコン操作は不可能。)

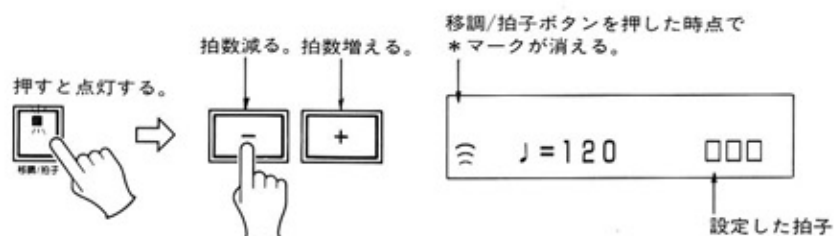




★テンポを大幅に変える場合は、テンポボタンをもう一度押して*マークを点減させてください。
 -ボタンおよび+ボタンでテンポを粗調整できるようになり、大変便利です。
 なお、テンポは、♩=40～♩=230の範囲で設定できます。

●メトロノームの拍子設定

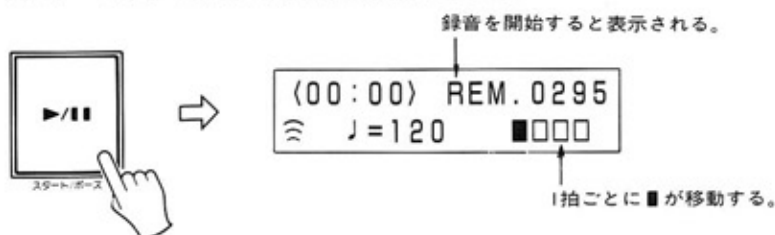
移調/拍子ボタンを押すと、-ボタンおよび+ボタンでメトロノームの拍子を設定できるようになります。なお、拍子は□マークの数で表わされます。(リモコン操作は不可能。)



なお、拍子は、1拍子、2拍子、3拍子、4拍子、6拍子のいずれかを設定できます。

④録音開始

スタート/ポーズボタンを押せば録音を開始できます。



★メトロノーム音は、各小節の1拍目が強拍になります。たとえば、4拍子のときは次のようになります。



★メトロノームの音を発音させながら録音しても、メトロノームの音が録音されることはありません。

★テンポとテンポ名称の対応は、本機では次のように定めています。
(メトロノームの基準と同じです。)

テンポ	テンポ名称
$\text{♩} = 40$	GRAVE
46	LARGO
52	LENTO
56	ADAGIO
60	LARGHETTO
69	ANDANTE
80	ANDANTINO
92	MODERATO
108	ALLEGRETTO
132	ALLEGRO
144	ALLEGRO ASSAI
152	ALLEGRO VIVACE
160	VIVACE
184	PRESTO
208	PRESTISSIMO

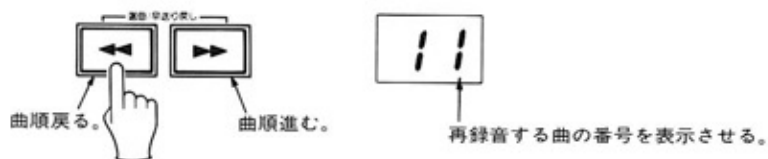
再録音

すでに録音済みの曲を消してその曲番に録音する場合には、録音開始待ちのときに、曲番を指定してください。

①録音開始待ちの状態にあることを確認

②再録音する曲を指定

選曲／早送り戻しボタンを押して、再録音する曲の番号を曲番号表示部に表示させます。(リモコン操作する場合は、選曲ボタンを使用。)



③録音開始

スタート／ポーズボタンを押せば再録音を開始できます。

アンサンブル対応曲の録音

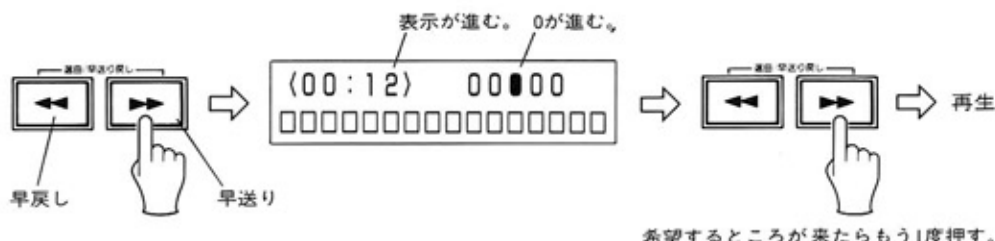
アンサンブル対応曲を録音する場合には、ヤマハ・デジタルシーケンスレコーダー QX3 などをご使用ください。詳しくは、MIDIハンドブック・3-7データの互換性をご覧ください。

再生機能

ここでは、再生に関する様々な機能を紹介します。

早送りおよび早戻し

停止中には選曲／早送り戻しボタンは選曲ボタンとして働きますが、再生中には早送り戻しボタンとして働きます。再生中に早送りしたい場合には ボタンを押し、再生中に早戻ししたい場合には ボタンを押してください。LCD上の経過時間の表示が進み、早送りまたは早戻しされます。希望するところ cameたら、もう一度そのボタンを押してください。そこから再生できます。



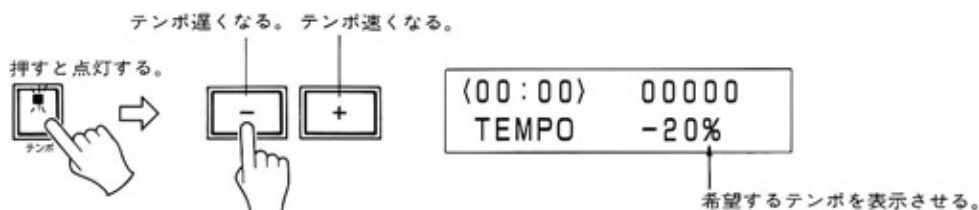
★リモコンには、早送り戻し専用のボタンがありますので、停止中でも早送りおよび早戻しが可能です。

再生一時停止

再生している途中でスタート／ポーズボタンを押せば、再生一時停止状態にすることができます。この状態でもう一度スタート／ポーズボタンを押せば、継続して再生できます。

テンポの変更

再生の際、テンポを変更することができます。停止中または再生中に、テンポボタンを押してください。-ボタンおよび+ボタンでテンポを変更できるようになります。



★テンポは、-50%、-40%、-30%、-20%、-10%、-05%、00%、+05%、+10%、+20%の中で設定できます。なお、00%は通常のテンポ、つまり録音した時と同じテンポです。

移調

再生の際の音程を変更することができます。停止中または再生中に移調／拍子ボタンを押してください。-ボタンおよび+ボタンで移調できるようになります。



★2 oct-down～2 oct-upの範囲内で移調できます。なお、normalは録音した時の音程、つまり移調していない状態です。

リピート再生

1枚のフロッピーディスクの全ての曲を繰り返し聴きたい場合や、1曲を繰り返し聴きたい場合、ある曲の2点間を繰り返し聴きたい場合には、リピート機能を使うと便利です。一度リピート機能を働かせると、リピートを解除するまで、繰り返し再生します。

●全曲リピート

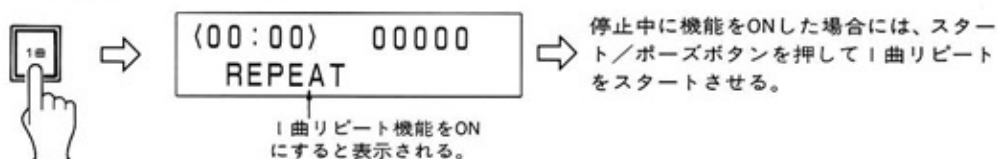
停止中または再生中に全曲リピートボタンを押すと、全ての曲を繰り返し再生する全曲リピート機能がONされます。



なお、リピートを解除する場合には、もう一度全曲リピートボタンを押してください。

●1曲リピート

停止中または再生中に1曲リピートボタンを押すと、その時選曲されていた曲を繰り返し再生する1曲リピート機能がONされます。



なお、リピートを解除する場合には、もう一度1曲リピートボタンを押してください。

●A-Bリピート

A-Bリピートとは、ある曲内の任意の2点間(A-B間)を繰り返し再生できる機能です。次の手順で機能の設定をしてください。

①希望する曲を再生させる

②A点の指定

リピート再生させる2点間の頭が来たら、A-Bリピートボタンを押す。



③B点の指定

2点間の終わりが来たらA-Bリピートボタンを押す。




④リピートの解除

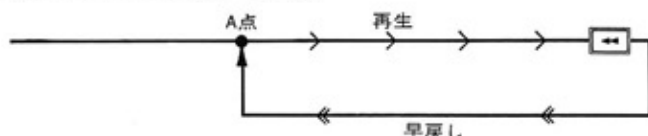
リピートを解除する場合には、もう1度A-Bリピートボタンを押す。

★A-Bリピート機能を、違う曲の2点間で働かせることはできません。

リターン&ストップ

A-Bリピート機能を流用し、A点のみ指定すると、リターン&ストップが可能です。リターン&ストップとは、 ボタンを押して早戻しすると、A点まで来た時にそこでストップする機能です。

●リターン&プレイ機能の使用例



早戻しすると、あらかじめ指定したA点まで戻り、そこでストップする。

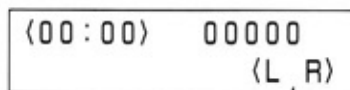
L/R対応曲の再生

L/R対応曲として録音された曲を再生する場合には、パートキャンセル機能を働かせることができます。パートキャンセル機能とは、左手のパートの音の再生、または右手のパートの音の再生をカットする機能です。この機能を使って再生する場合には、次の手順で操作してください。

①再生するL/R対応曲を選曲

②ストップボタンを押す

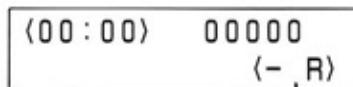
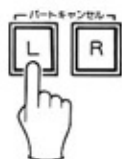
ストップボタンを押すと、10秒間次のように表示されます。



L/R対応曲であることを示す文字。

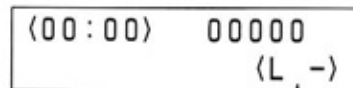
③パートキャンセル機能の設定

左手のパートの音のカットする場合には、パートキャンセルボタンのLを押す。



左手のパートキャンセルした場合の表示。

右手のパートの音のカットする場合には、パートキャンセルボタンのRを押す。



右手のパートをキャンセルした場合の表示。

④再生開始

スタート/ポーズボタンを押せば、再生を開始できます。

★キャンセルを解除する場合には、もう一度同じボタンを押してください。

★この機能を使えば、片方のパートの音を再生し、もう片方のパートの音を自分で演奏できるため、練習に最適です。

★MIDIキーボードやMIDIトーンジェネレーターを併用すると、発展した使い方ができます。

アンサンブル対応曲の再生

デジタルシーケンスレコーダー-QX3などを使って録音したアンサンブル対応曲を再生する場合には、ここに示す操作をして、どのパートの音を再生するのか選択してください。

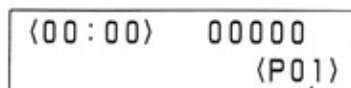
●パートの指定方法

お手持ちのピアノで再生するパートを、指定する方法を紹介します。

①再生するアンサンブル対応曲を選曲

②ストップボタンを押す

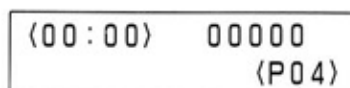
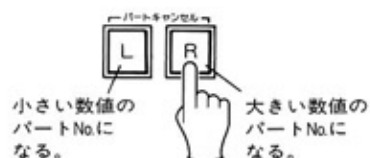
ストップボタンを押すと、10秒間次のように表示されます。



アンサンブル対応曲の場合のみ表示される。

③パートの指定

お手持ちのピアノで再生するパートを、パートキャンセルボタンで指定します。



希望するパートNoを表示させる。

④再生開始

スタート/ポーズボタンを押せば、指定したパートがお手持ちのピアノで再生されます。

★別冊のMIDIハンドブックの3-6, 3-7を参照してください。

付加機能

ここでは、録音および再生に属さない付加機能を紹介します。

曲名およびディスクタイトルの入力 ← 録再モデルのみ

録音した曲の曲名やフロッピーディスクのタイトルを入力する場合には、次の操作を行ってください。また一度入力した曲やディスクタイトルを変更する場合も、操作の方法は同じです。なお、ディスクタイトルとは、ディスクを挿入した後に約10秒間表示される文字のことです。

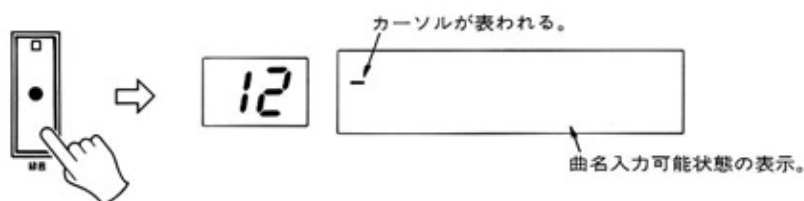
● 曲名の入力方法

① 録音開始待ちの状態に

録音ボタンを押して録音開始待ちの状態にします。

② もう一度、録音ボタンを押す

もう一度録音ボタンを押して、曲名入力可能状態にします。



③ 曲番号を表示させる

曲名の入力を行なう曲の番号を、選曲/早送り戻しボタンで指定します。(リモコン操作する場合は、選曲ボタンを使用)

④ 曲名の入力

ピアノの鍵盤およびラウドペダル、ソフトペダルを使って曲名を入力します。各録盤とペダルの役割は右上図のとおりです。なお、32文字まで入力可能です。

たとえば、「バイエル 77」と入力する場合には、次のように操作します。

- (1) 63番の鍵盤を押して「ハ」を表示させます。もし、この時「j」が表示されたら、英文字モードになっていますので、ソフトペダルを踏んでカタカナモードにしてから、再度63番の鍵盤を押してください。「ハ」が表示されたらラウドペダルを踏んで「ハ」を入力します。



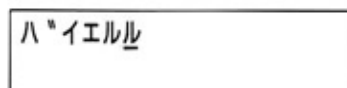
- (2) 次に「[♯]」を入力します。

83番の鍵盤を押して「[♯]」を表示させ、ラウドペダルを踏んで「[♯]」を入力します。

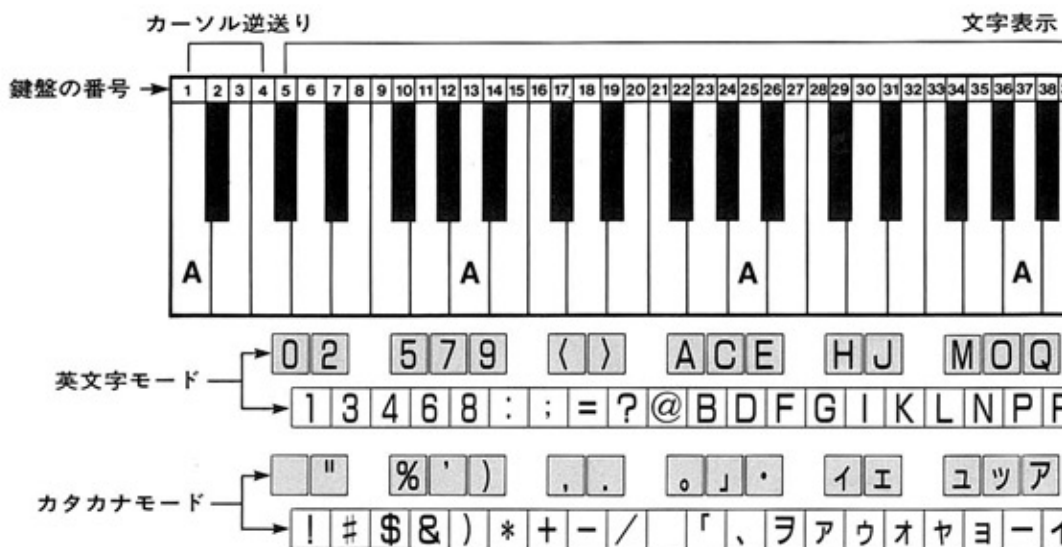


- (3) 同様に、39番の鍵盤を押して「イ」を表示させ、ラウドペダルを踏んで入力します。

- (4) 同じ要領で「エ」「ル」を入力します。



—各鍵盤とペダルの役割—



- (5)「バイエル 77」の「ル」と「7」の文字の間に一文字分のスペースを確保します。
5番の録盤を押して、ラウドペダルを踏んでください。スペースを入力できます。

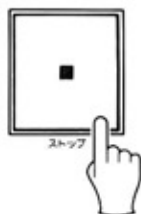
- (6)「7」を入力します。
「7」の文字は英文字モードの文字なので、ソフトペダルを踏んで英文字モードにしてから、12番の鍵盤を押し、ラウドペダルを踏んで「7」を入力します。

- (7)もう一つ「7」を入力します。
12番の鍵盤を押し、ラウドペダルを踏んで「7」を入力します。

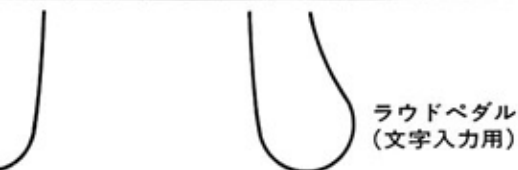
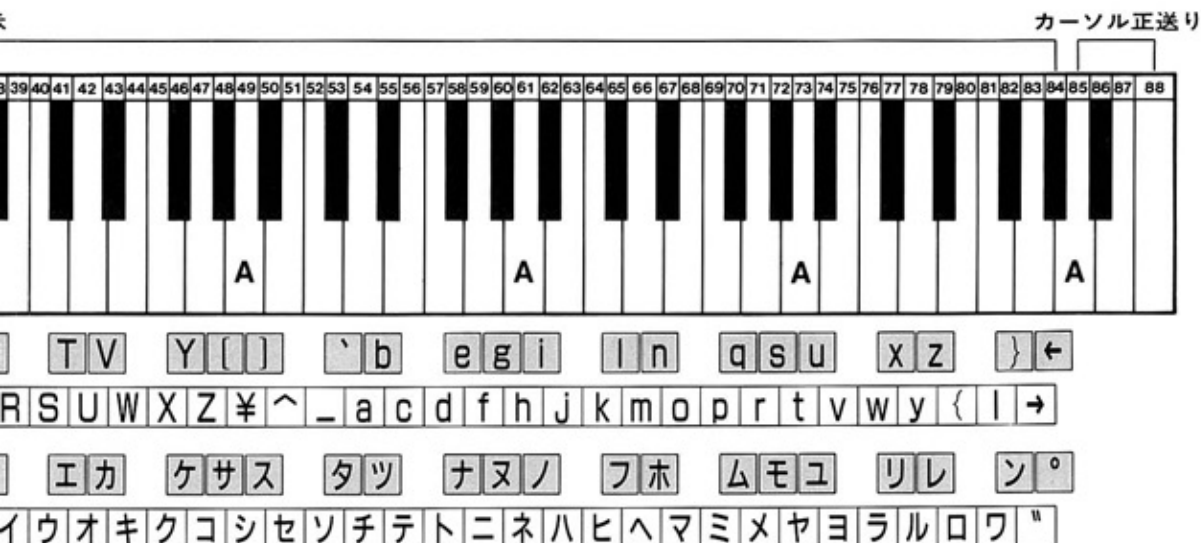
ハ^ルイエル 77

⑤入力の終了

ストップボタンを押して入力を終了します。



入力終了(通常表示に戻る。)



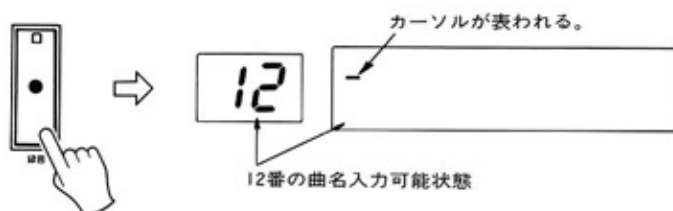
● ディスクタイトルの入力方法

① 録音開始待ちの状態に

録音ボタンを押して録音開始待ちの状態にします。

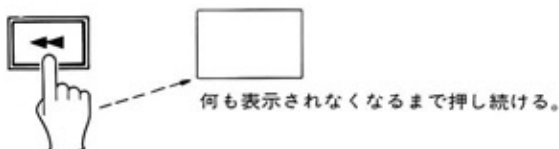
② もう一度録音ボタンを押す

もう一度録音ボタンを押します。この状態はまだ曲名入力可能状態です。



③ [←] ボタンを押し続ける

選曲/早送り戻しボタンの[←]を押し続けます。ディスクタイトルは、1番の曲名の前に入力しますので、曲番号表示部の表示が……03、02、01と変化していき、何も表示されなくなるまで押し続けてください。(リモコン操作する場合は、選曲ボタンを使用。)



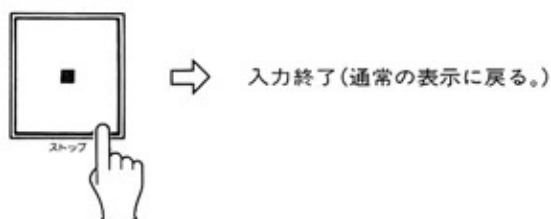
④タイトルの入力

曲名を入力する方法と同じ要領で、タイトルを入力します。64文字まで入力可能です。



⑤入力の終了

ストップボタンを押して入力を終了します。



メトロノーム機能のみの使用

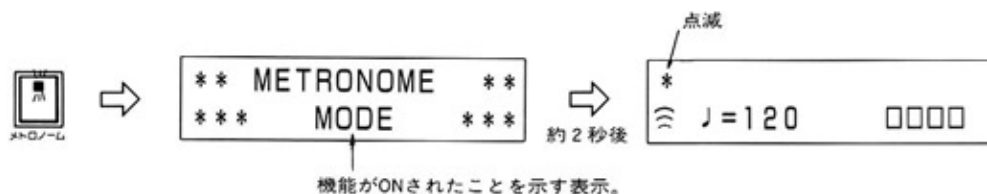
メトロノームの機能は、録音時だけに限らず、ピアノの練習をする際に使用することもできます。操作の手順は次のとおりです。◀再生専用モデルは、練習の時だけこの機能を使えます。

①停止状態にする

ストップボタンを押して停止状態にします。

②メトロノームの機能をON

メトロノームボタンを押してメトロノームの機能をONにします。



③メトロノームの設定

20ページの“メトロノームを使った録音”と同じ要領で、メトロノーム音のON/OFF、テンポ設定、拍子設定をします。

④メトロノームをスタート

スタート/ストップボタンを押してメトロノームをスタートさせます。(リモコン操作は不可能。)

★メトロノームをストップさせる場合は、ストップボタンを押してください。(リモコン操作は不可能。)

★メトロノーム機能をOFFにする場合は、もう一度メトロノームボタンを押してください。

1曲消去 ← 録再モデルのみ

録音済みの曲を消去したい場合には次の操作をしてください。ただし、消去後もその曲番と曲名は残ります。

①録音開始待ちの状態に

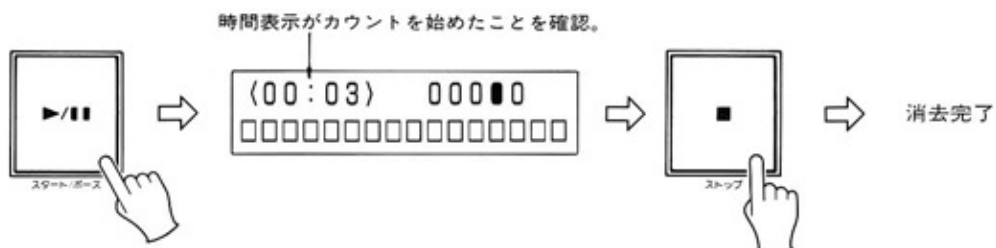
録音ボタンを押して録音開始待ちの状態にします。

②消去する曲を設定

選曲／早送り戻しボタンを押して、消去したい曲の番号を曲番号表示部に表示させます。(リモコン操作する場合は、選曲ボタンを使用。)

③消去

スタート／ポーズボタンを押し、ピッという音がしてLCDの時間表示がカウントし始めたら、ストップボタンを押します。これで消去完了です。



MIDI機能

MIDI機能を使うと、さらに発展的な使用が可能になります。別冊のMIDIハンドブックには、MIDI機能が細かく紹介されていますので、ぜひお読みください。

仕様

構成

コントロールユニット	・キースイッチ ・LCD ・LEDインジケーター ・LEDディスプレイ ・ディスクドライブ ・ジャック ・メディア	18 ドットマトリックス(16文字×2行) パワー、録音、音量、テンポ、 移調、メトロノーム、MIDI 7セグメント×2桁 3.5インチマイクロフロッピーディスクドライブ MIDI IN/OUT、 フットスイッチ用ホーンジャック 両面倍密度倍トラック3.5インチマイクロ フロッピーディスク 記録容量：628kbyte 曲数：60曲 曲名：32文字 ディスクタイトル：64文字
ソレノイドユニット	・同時発音数	16音
センサーユニット	・同時発音数	16音（録再モデルのみ）

電源

・定格電源電圧・周波数	AC100V・50/60Hz
・定格消費電力	120W（アップライトピアノ） 100W（グランドピアノ）
・使用温度	4℃～40℃

付属品

ワイヤレス・リモコン、録音済フロッピーディスク

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

警告およびエラー表示について

本機は、不適当な操作を行なおうとした場合など、不都合が起きますと、LCD上に警告やエラーを意味する言葉を表示することがあります。このようなときには、原因を確認したうえで処置を施してください。また、ここでは故障と勘違いしやすいメッセージも記載します。

表 示	原 因	処 置
テ ^レ ィスクラ イレテクタ ^ク サイ。	電源をONにすると必ず表示されます。	
テ ^レ ィスクニ フ ^ロ ロテクタ ^ク カカッテマス。	フロッピーディスクの録音内容が保護されています。	録音や曲名/ディスクタイトルの入力をする場合には、フロッピーディスクの消去防止用のツメを解除してください。
テ ^レ ィスクカ ^ク フォーマットサレテマセン。	フォーマットをしていないディスクを挿入した。	新品のディスクに録音する場合には、フォーマットする必要があります。
コノテ ^レ ィスクハ ツカエマセン。トウロク ラ シテクタ ^ク サイ。	他のシステムで使用していたディスクを挿入した。	他のシステムで使用していたディスクを使用するには、登録する必要があります。
ERROR OCCURRED!! (PUSH STOP KEY!)	ディスクの不良	ディスクを交換してください。
	ハードの異常	ストップキーを押してエラー表示を解除してください。もし頻繁に起こるようであれば、販売店または電音サービスセンターにご連絡ください。
MIDI DATA ERROR! (PUSH STOP KEY!)	MIDIデータの異常	ストップキーを押す。
	たくさんのMIDIデータを一度に受信した。	ストップキーを押す。
	MIDI接続が不完全	両機器の電源をOFFにした後、接続を確認する。
ファイルカ ^ク ミツカリマセン。トウロク シナオシテクタ ^ク サイ。	再生中または録音中にエラーが発生した。	登録しなおしてから、再録音する。
	再録音している途中で、ディスクのメモリー容量を超過した。	登録しなおすと共に、他のディスクに録音する。
フォーマットテ ^レ キマセン。	ディスクの不良	ディスクを交換してください。
コノテ ^レ ィスクニハ コレイシ ^ョ ウ キロクテ ^レ キマセン。	ディスクのメモリー容量がいっぱいになった。	他のディスクに録音してください。
トウロク テ ^レ キマセン	ディスクの不良。	ディスクを交換してください。
コノキョクハ トリナオシテ ^レ キマセン。	市販のディスクの中には、再録音できない曲があります。	
シハ ^ク ラク オマチクタ ^ク サイ。	操作できる状態になるまでに時間がかかる時には、必ず表示されます。この表示の時にディスクを取り出さないでください。	
ロクオン/サイセイテ ^レ キルキョク スウハ 60キョクマテ ^レ テ ^レ ス。	1枚のディスクに61曲めを録音しようとした。	1枚のディスクに録音できる曲数は最高60曲です。

録
再
モ
デ

録
再
モ
デ

録
再
モ
デ

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの電音サービスセンター宛、お問い合わせ、またはサービスをご依頼ください。

録再モデルのみ →

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。	電源プラグまたは接続ケーブルの差し込み不完全。	確実に差し込んでください。
録音ができない。	電源プラグまたは接続ケーブルの差し込み不完全。	確実に差し込んでください。
	不適当な操作を行なおうとした。	“警告およびエラー表示について”の項を参照。
再生ができない。	電源プラグまたは接続ケーブルの差し込み不完全。	確実に差し込んでください。
	不適当な操作を行なおうとした。	“警告およびエラー表示について”の項を参照。
	消去済みの曲を再生しようとした。	
	録音を誤って中断したため、録音されていない。← 録再モデルのみ	再録音してください。← 録再モデルのみ
何度も繰り返し、再生されてしまう。	リピート機能が働いている。	リピート機能を解除してください。
録音した時と違う音量または違うテンポ、違う音程で再生される。		音量の設定、テンポの設定、移調の設定をノーマルの状態に戻してください。
弾かない音が出る。	ミスタッチした音が発音されている。	確実に演奏して再録音してください。← 録再モデルのみ
再生時に、ピアノから接触音が聴こえる。	駆動部が鍵盤後方下部を突き上げる仕組みなので、再生時に音量を下げると接触音が聴こえることがあります。	
再生時に音抜けがする。	三連符、トリルなど速いパッセージで、鍵盤が元の位置に戻らないうちに次の打鍵が始まる曲は、再生時に音抜けを生じることがあります。	
	テンポの設定が速すぎる。	テンポを遅くする。
	音量の設定が低すぎる。	音量を上げる。
	録音した時の演奏が弱すぎる。	確実に演奏して再録音してください。← 録再モデルのみ
再生時のアクセント表現が、録音した時と違う。	録音した時の演奏が弱すぎる。	確実に演奏して再録音してください。← 録再モデルのみ

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1年です(現金、ローン、月賦などによる区別はございません)。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください(保証書はピアノ本体と共通です)。

●保証書は大切に保管しましょう。

保証書は弊社が、本機をご購入頂いたお客さまに、保証規定にのっとりご購入の日から向こう1年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させて頂くことになります。いつでもご提示頂けますように十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金を頂く場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。満1年間の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっております。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

ヤマハピアノプレーヤについてのお問い合わせは、もよりのヤマハピアノ特約店/下記のヤマハへ。

北海道支店	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目 ☎011(512)6114
北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター内) ☎011(513)5036
仙台支店	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル ☎022(222)6148
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区加町5-7(仙台卸商共同配送センター3F) ☎022(236)0249
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル ☎03(3572)3145
関東支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル ☎03(3572)3120
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) ☎03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 ☎044(434)3100
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーホールビル2F) ☎025(243)4321
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 ☎052(201)5145
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2(ヤマハ名古屋流通センター3F) ☎052(652)2230
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911(ヤマハ柳富竹工場内) ☎053(465)6711
大阪支店	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 ☎06(252)8731
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16(ヤマハ柳千里丘センター内) ☎06(877)5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀8-7(ヤマハ柳高松店内) ☎0878(22)3045
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 ☎082(244)3748
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 ☎082(874)3787
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ☎092(472)2152
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ☎092(472)2134
本社/カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911(ヤマハ柳富竹工場内) ☎053(465)1158
本社経営営業本部 ピアノ営業部	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル ☎03(5568)2929

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA